



# かかりつけ医を 持ちましょう

かかりつけ医と病院、どちらもそれぞれに重要な役割があります。違いを理解し、まずはかかりつけ医に相談し、受診しましょう。

皆さんにとって、頼りになるかかりつけ医をもつことは、健康を維持・増進するためにも大切なことです。かかりつけ医は地域に密着して、子どもから大人まで世代を問わず、住民の健康を支えています。

■問い合わせ先…保健センター ☎46-5571

## かかりつけ医とは

かかりつけ医とは、日頃から健康管理や初期の治療をしてくれる身近な医師(医療機関)のことです。

かかりつけ医には、次のような良い点があります。

- 症状、病歴、健康状態を把握しているの、いざというときにすぐに対応してくれます
- 食事や運動など、日常の健康管理アドバイスしてくれます
- 入院や高度な検査が必要な場合などに、適切な病院・診療科を指示、紹介してもらうことができます



## 病院と診療所の役割の違い

【一次医療機関】 民間の診療所(医院)、国保診療所、休日・夜間救急当番医など

比較的症状の軽い患者の初期診療、日常的な病気や生活習慣病、安定した慢性疾患の診療を行います。

【二次医療機関】 県立病院、民間の病院

専門の医療設備を整備して、入院や手術が必要な重症患者の診療を行います。

【三次医療機関】 高度救命救急センター

命に関わる特に症状の重い患者や二次医療機関から紹介された患者の入院治療を行います。

## 病院の受診は、かかりつけ医からの紹介で

風邪などの日常的な病気や生活習慣病、安定した慢性疾患の場合は、できるだけ通常の診療時間内に、診療所(医院)などのかかりつけ医を受診しましょう。

精密検査やより高度な治療が必要になったときは、かかりつけ医の紹介で病院を受診しましょう。



中学生が考案したロゴマーク。左はおわん、中央は中尊寺ハス、右は巻き物をモチーフにデザイン



## 中学生が考えた、平泉のSDGsのシンボル



【表紙から続く】プロジェクトは2月に実施。5人はSDGsの理念などを学んだほか、町地域おこし協力隊の山内彩さんらからデザインツール「figma(フイグマ)」の使い方を教わり、それぞれの案を持ち寄って3種類を決めました。

3月18日には、ロゴマークの完成を青木町長に報告。青木町長は「町全体に取り組みを広げたい」と語りました。

町は、SDGsの意識高揚や推進に向け、マークを活用したバッジを製作するなどしてPRするほか、個人や企業などでの活用も促していきます。

## Interview

「町中学生アイデア実現プロジェクト」に参加し、町のSDGsロゴマークを作成した中学生に聞きました。



ロゴマークを青木町長(左)に紹介する(右から)本間嘉悠さん、瀧澤実央さん、佐藤沙和さん、藤原蓮さん、菊地杏さん

菊地 杏さん(9区)

ロゴマークを考える中で平泉の魅力を知り、家族とも話し合うことでSDGsを考えるきっかけになった。

佐藤 沙和さん(8区)

家族と相談しながら、おわんのロゴマークを考えた。マークを通じて、SDGsの思いが伝わってくれるとうれしい。

藤原 蓮さん(2区)

編集ソフトを使ったデザインは、線や配色など、手描きより大変だった。町でマークを役立ててほしい。

瀧澤 実央さん(8区)

平泉の特色、伝えたいことを考えながらロゴマークを作った。2030年を過ぎても、マークを活用してほしい。

本間 嘉悠さん(11区)

色の配置を考えることで、17色の意味を勉強できた。マークを通じ、みんなの心にSDGsの大切さを伝えたい。